

## 《 母校通信 》 大 健 闘

第 103 回全国高校野球選手権福島大会で、相馬高校は、ベスト 4 をかけて、福島商業と対戦、2 点リードの 9 回裏、2 アウト後、3 点を失い、7-8 で惜しくも逆転サヨナラ負け、涙をのんだ。

**相馬 土壇場で涙**

29 年ぶりの 4 強ならず  
相馬 2 年生エース 小野内 力尽きる

相馬	0001000007
福商	0010001008
投手	小野内(2)
捕手	今野(1)
一塁	田中(1)
二塁	相馬(1)
三塁	相馬(1)
四塁	相馬(1)
五塁	相馬(1)
六塁	相馬(1)
七塁	相馬(1)
八塁	相馬(1)
九塁	相馬(1)

**相馬 29年ぶり 8強**

尚志 7 回意地の 1 点

しかし、4 回戦では、シード校磐城を破った尚志高校を 7-2 で一蹴、「29 年振り 8 強」の見出しが紙面に躍った。

**相馬の先発吉川 フォーム修正し快投**

投打のかみ合った相馬が 29 年ぶりに優勝を争った。先発吉川選手は、一闘の反省を生かして、長い投球をまきこぎ、また一運面の笑みを帯びた。

エース小野内を奮闘する小野内、共に 2 年生の二枚看板として、快進撃を支えている。前回は失点 2 点、打点 2 点、打数 10 打、2 回戦の反省を生かし、踏み出す足、投げ方を修正。9 回、失点の快投に結びついた。猛襲の影響で後半には握力がなくなったというが、ツータイムやカットボールで相手打線に的を絞らせた。最後までマウンドを守り抜いた。

ベンチの雰囲気も明るい。主将菊地源稀(はるき)と記録員の黒ひかる(はるか)を center に笑顔で野球を楽しむ姿を、吉川は「平日にチームがまとまってきた感じが、今日、自信を持ってやれている」と目を細める。

先発した吉川は、天候が先陣と二日でも長く野球がしたい。次も勝って優勝を目指すと意気込む。チームの快進撃を支える気概を武器に、準決勝進出に向けて全力を尽くす。

相馬	0001000007
福商	0010001008
投手	吉川(2)
捕手	今野(1)
一塁	田中(1)
二塁	相馬(1)
三塁	相馬(1)
四塁	相馬(1)
五塁	相馬(1)
六塁	相馬(1)
七塁	相馬(1)
八塁	相馬(1)
九塁	相馬(1)

29 年前、平成 4 年の夏の大会は、ずっとスタンドから相高を応援をしていた。息子が野球部員だった。準決勝は郡山高校に 0-3 で敗れ、ベスト 4 だった。

その前の年、30 年前の平成 3 年夏の大会の初戦も忘れられない。いわき平球場で、第一シードの日大東北と当たった。向こうは相手が相馬なのでエースを温存してきた。そしたら何と 7-6 で第一シードに勝ってしまったのである。一塁側だった相高応援席は正に歓喜に包まれた。急遽、宿泊費などを球場の外で保護者等から徴収した。この年もベスト 8 まで行ったのである。

### 準優勝！

更に遡ると、昭和 32 (1957) 年の夏の大会では、決勝まで勝ち上がった。内郷高校に敗れたものの準優勝である。当時、甲子園出場への切符は、福島、宮城、山形の 3 県から一校のみの厳しい時代であった。福島県代表として東北大会 (3 県) に出場、山形商業に敗れ、甲子園への夢は断たれた。私は中学 3 年生。駒ヶ嶺中学校の先輩、菅野和郎さんが、捕手でキャプテンで 4 番、しかも生徒会長と聞いていたので、二の丸球場の練習試合を見に行ったら思い出がある。